

「滋賀県のクリエイティブ産業振興」についてのアンケート集計結果

調査時期：平成24年6月

対象者：県政モニター358人

回答数：307人（回収率85.8%）

担当課：商業振興課

目的：本県は、これまで全国有数の内陸工業県として発展してきましたが、経済のソフト化が進展しており、従来のものづくり産業の振興に加え、新たな産業振興策が求められています。このため、将来性が見込まれるクリエイティブ産業の振興策について、今年度調査研究を行うための基礎資料として活用するため、アンケート調査を実施しました。

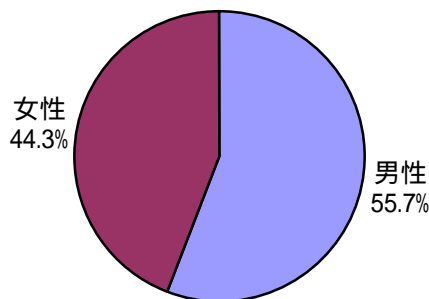
*クリエイティブ産業とは

「個人の創造性や技能、才能に由来し、また知的財産権の開発を通して富と雇用を創出しうる産業」とされており、具体的には次の18産業分野を指すとされています。

広告、建築、舞台美術、アート、デザイン、映画、音楽・ビデオ、テレビ・ラジオ、コンピュータソフト・サービス、出版、繊維・アパレル、工芸、玩具、家具、食器、ジュエリー、文具、皮革製品（～はコンテンツ産業分野です。）

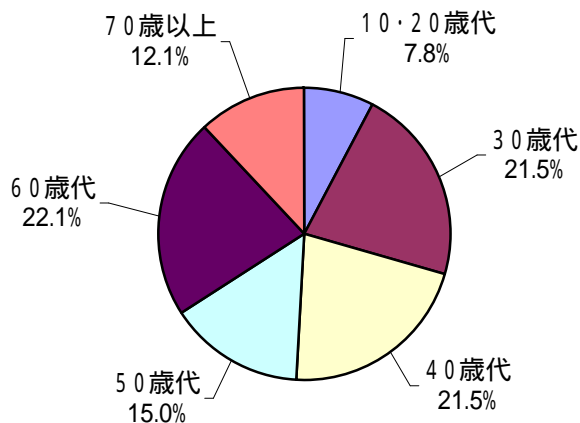
問1 あなたの性別を教えてください。

項目	人数(人)	割合(%)
男性	171	55.7%
女性	136	44.3%
合計	307	100.0%



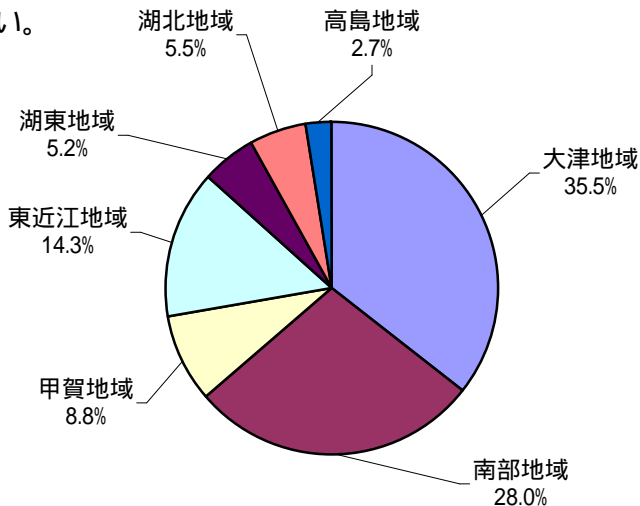
問2 あなたの年齢を教えてください。

項目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	24	7.8%
30歳代	66	21.5%
40歳代	66	21.5%
50歳代	46	15.0%
60歳代	68	22.1%
70歳以上	37	12.1%
合計	307	100.0%



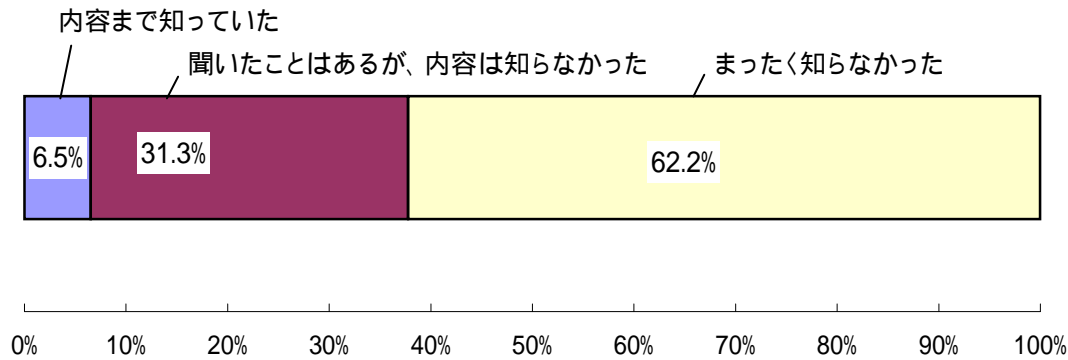
問3 あなたのお住まいの地域を教えてください。

項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	109	35.5%
南部地域	86	28.0%
甲賀地域	27	8.8%
東近江地域	44	14.3%
湖東地域	16	5.2%
湖北地域	17	5.5%
高島地域	8	2.7%
合計	307	100.0%



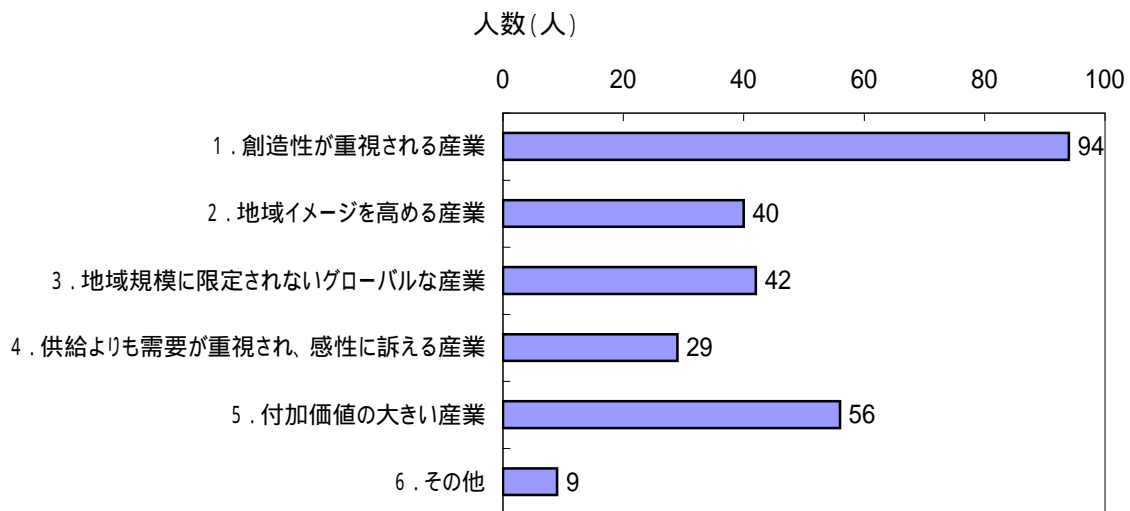
問4 あなたは、若者の雇用が見込まれ、地域経済を活性化させると期待される「クリエイティブ産業」をご存じでしたか。

項目	人数(人)	割合(%)
1.内容まで知っていた	20	6.5%
2.聞いたことはあるが、内容は知らなかった	96	31.3%
3.まったく知らなかった	191	62.2%
合計	307	100.0%



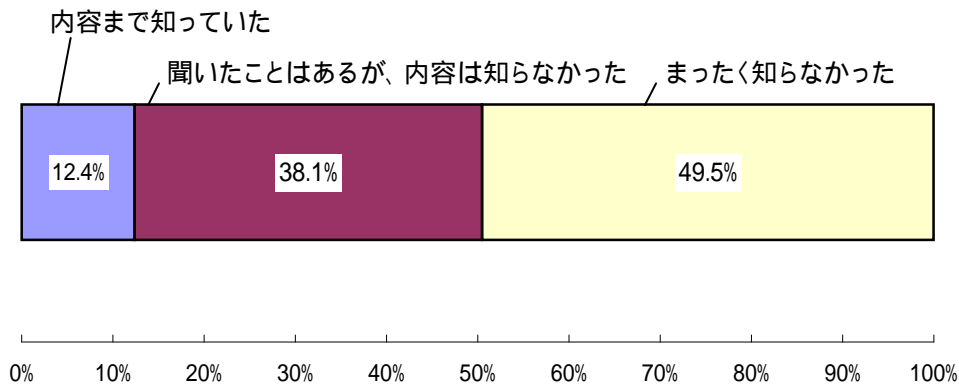
問5 問1で「1.内容まで知っていた」または「2.聞いたことはあるが、内容は知らなかった」と回答された方にお聞きします。あなたは、クリエイティブ産業にどのようなイメージを持っていますか。(回答チェックはいくつでも可 n=116)

項目	人数(人)	割合(%)
1.創造性が重視される産業	94	81.0%
2.地域イメージを高める産業	40	34.5%
3.地域規模に限定されないグローバルな産業	42	36.2%
4.供給よりも需要が重視され、感性に訴える産業	29	25.0%
5.付加価値の大きい産業	56	48.3%
6.その他	9	7.8%



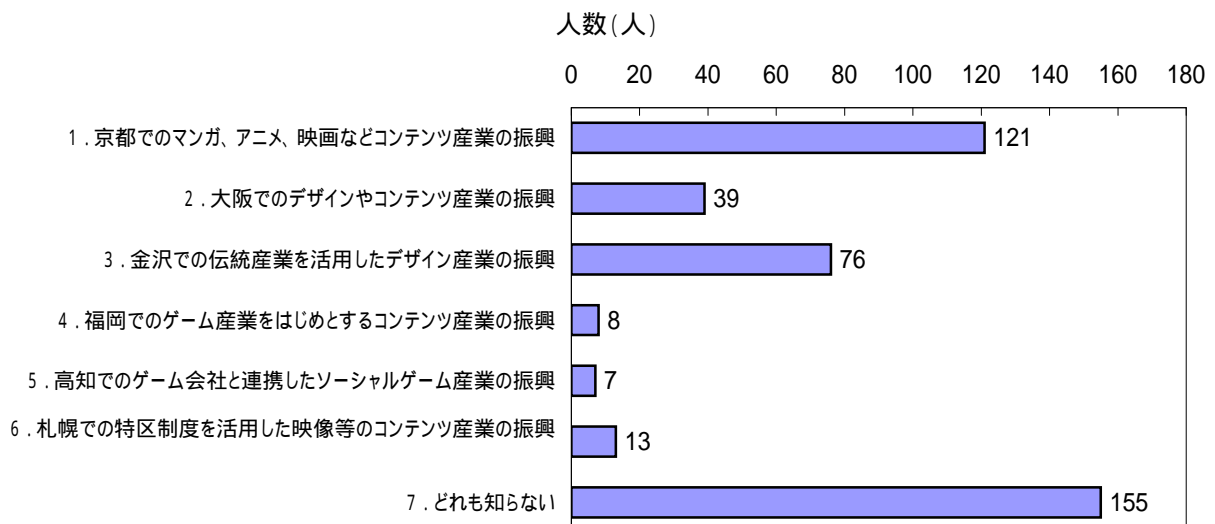
問6 海外では、ゲーム・アニメに加え、ファッションやデザイン性を高めた伝統工芸品等が高い人気を集めています。国は、こうした人気を活かし「クール・ジャパン」戦略として、クリエイティブ産業の振興を進めていますが、あなたはこうした取組をご存知でしたか。

項目	人数(人)	割合(%)
1.内容まで知っていた	38	12.4%
2.聞いたことはあるが、内容は知らなかった	117	38.1%
3.まったく知らなかった	152	49.5%
合計	307	100.0%



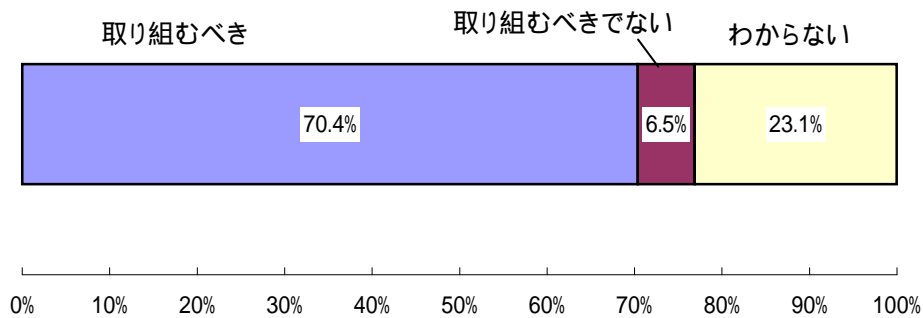
問7 近年、他の自治体でもクリエイティブ産業の振興に力を入れようとしていますが、この中にご存知のものはありますか。(回答チェックはいくつでも可 n=307)

項目	人数(人)	割合(%)
1.京都でのマンガ、アニメ、映画などコンテンツ産業の振興	121	39.4%
2.大阪でのデザインやコンテンツ産業の振興	39	12.7%
3.金沢での伝統産業を活用したデザイン産業の振興	76	24.8%
4.福岡でのゲーム産業をはじめとするコンテンツ産業の振興	8	2.6%
5.高知でのゲーム会社と連携したソーシャルゲーム産業の振興	7	2.3%
6.札幌での特区制度を活用した映像等のコンテンツ産業の振興	13	4.2%
7.どれも知らない	155	50.5%



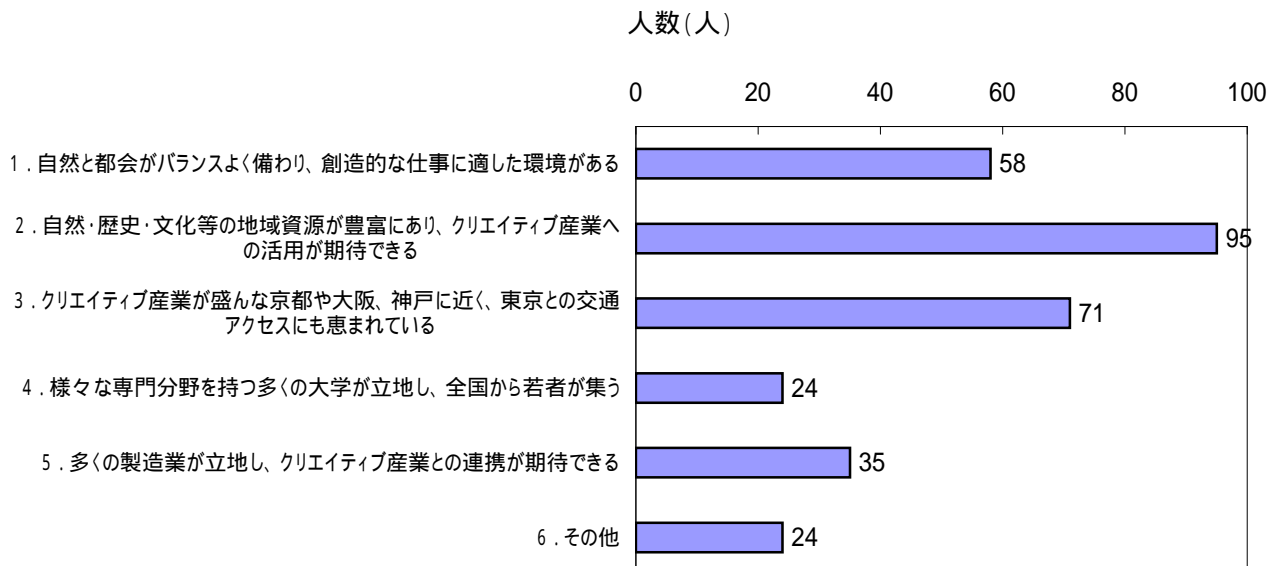
問8 県では、本県に集う大学生などの若者や県内からいったん外に出た子弟が県内に帰って来る時の雇用の受け皿として、クリエイティブ産業の振興を検討しています。あなたは、県がクリエイティブ産業の振興に取り組むことについて、どのように思われますか。

項目	人数(人)	割合(%)
1. 取り組むべき	216	70.4%
2. 取り組むべきでない	20	6.5%
3. わからない	71	23.1%
合計	307	100.0%



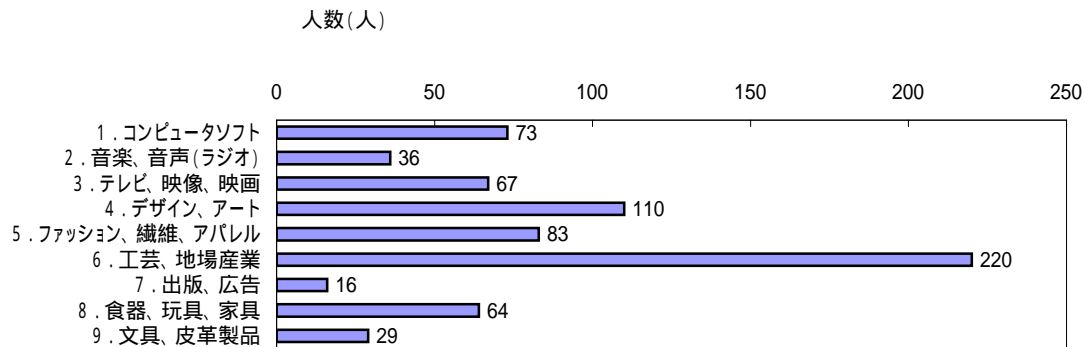
問9 滋賀の環境は、クリエイティブ産業の振興を進める上で、優位性があると考えられていますが、あなたはクリエイティブ産業の振興にとって、滋賀県にどんな優位性があると思われますか。(回答チェックは一つだけ)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 自然と都会がバランスよく備わり、創造的な仕事に適した環境がある	58	18.9%
2. 自然・歴史・文化等の地域資源が豊富にあり、クリエイティブ産業への活用が期待できる	95	30.9%
3. クリエイティブ産業が盛んな京都や大阪、神戸に近く、東京との交通アクセスにも恵まれている	71	23.1%
4. 様々な専門分野を持つ多くの大学が立地し、全国から若者が集う	24	7.8%
5. 多くの製造業が立地し、クリエイティブ産業との連携が期待できる	35	11.4%
6. その他	24	7.9%
合計	307	100.0%



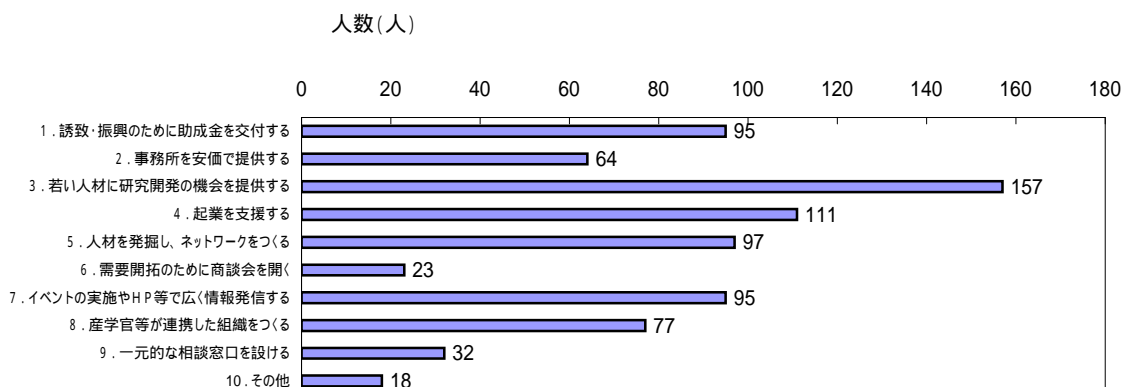
問10 クリエイティブ産業を構成する産業分野のうち、あなたが「滋賀のポテンシャルを活かした上で」、今後滋賀で振興するべきと考えるのは次のうちどれですか。
 (回答チェックは3つまで可 n=307)

項目	人数(人)	割合(%)
1. コンピュータソフト	73	23.8%
2. 音楽、音声(ラジオ)	36	11.7%
3. テレビ、映像、映画	67	21.8%
4. デザイン、アート	110	35.8%
5. ファッション、繊維、アパレル	83	27.0%
6. 工芸、地場産業	220	71.7%
7. 出版、広告	16	5.2%
8. 食器、玩具、家具	64	20.8%
9. 文具、皮革製品	29	9.4%



問11 クリエイティブ産業を振興するために、県はどのような施策に力を入れるべきと思われますか。(回答チェックは3つまで可 n=307)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 誘致・振興のために助成金を交付する	95	30.9%
2. 事務所を安価で提供する	64	20.8%
3. 若い人材に研究開発の機会を提供する	157	51.1%
4. 起業を支援する	111	36.2%
5. 人材を発掘し、ネットワークをつくる	97	31.6%
6. 需要開拓のために商談会を開く	23	7.5%
7. イベントの実施やHP等で広く情報発信する	95	30.9%
8. 産学官等が連携した組織をつくる	77	25.1%
9. 一元的な相談窓口を設ける	32	10.4%
10. その他	18	5.9%



問12 その他、滋賀県におけるクリエイティブ産業の振興について、ご意見やご要望等がありましたらお聞かせください。(400字以内)

主な意見や要望

- ・現実的に発展していくためには、それなりの努力が必要であり、行政や地域の支援や協力がなければ成立しない。滋賀県という地域性をいかした分野で発展してもらいたい。
- ・個々の起業だけでなく、いくつも集積させられるような環境づくりとネットワーク化の支援が必要。
- ・関西の中でも家賃などは低価格なはず。若いクリエイターに場所を提供していくことが大切。
- ・今、目指すべき産業の視点はクリエイティブ産業ではなく、サステナブル産業であり、そのことにクリエイティブな発想で臨むべき。
- ・WEBを活用したクリエイティブ産業は、今や場所も時間も選ばず、滋賀の活性化に貢献できる産業だと思う。世界的にクリエイティブレベルの高いそれぞれのジャンルでのリーダー的な企業が集まる環境づくり、人が集まるところに様々な産業が活性化するという発想が必要。
- ・地域活性化には伝統産業に若者を呼び寄せる必要があり、地域特性を活かしたビジネス発掘が重要。
- ・補助金のような支援ではなく、相談や情報提供といったソフトの支援に限定すべき。
- ・地元産業があまり多くなく県外で学んだ大卒生が地元に戻ってくる機会が少ないのは大きな問題。産官学共同のプロジェクトで研究を進めて、実効ある施策を早急に立ち上げて欲しい。
- ・クリエイティブ産業のフィールドはグローバルで、コンテンツ事業が将来的に夢のある領域。滋賀県の田舎に都会のIT企業の出張所をつくったり、東京、大阪、名古屋等で活躍する滋賀県出身の若くて才能がある若者を滋賀に呼び戻す事ができる様な事業展開が必要。
- ・大学で特色のある研究分野で振興に活かせるアイテムあればそれを取り上げた方が得策では。滋賀から独創的でメッカな産業が発信できれば良い。
- ・滋賀には多くの伝統産業があり、現代の技術と合わせた新しいものを創造する産業創出の基盤があると思う。それを支える工芸・美術等の高校や大学に学ぶ多くの学生がいるので、それらを活用した産業をつくるのは、雇用の創出の点からも絶対必要。
- ・クリエイティブ産業は大賛成。琵琶湖はもとより歴史遺産、文化、大学等の教育機関、また多くの企業等々、いろんな分野から攻めて行ける地域だと思う。
- ・京都・大阪に近く歴史や豊かな自然にも恵まれているので、既存の文化や工芸をまず大切に保存し、その上で環境を破壊することなく、伝統産業と連携して創造的な産業を振興して欲しい。
- ・滋賀は、長年、工場の誘致に積極的であったため、第二次産業は多いが第三次産業の会社は少ない。大卒者が自分の能力を活かして仕事をする場所(求人)が少ない。特に出産後の再就職。
- ・ほかの地域のまねをしても仕方がないので、滋賀県でしかできないことを追及するべき。コンペ等が定期的にあると盛り上がるのでは。
- ・この方向性は、滋賀県の持つ地域資源と逆方向に向かっている。滋賀県の持つ強みは、「大阪と名古屋の間」、「歴史」、「一次産業」であり、この3点を生かすほうがいい。
- ・コンテンツ産業は大阪でも厳しく、東京でないと無理ではないか。ただ最近はネット環境が変化し、地域でも世界に発信できる環境が整ってきており、やり方によっては可能性を秘めていると思う。
- ・他府県の取組を見れば、環境的に企業等の恵まれた立地条件があったりする。滋賀県全体を見れば、歴史的な伝統産業もあり、取組のための環境を整えればうまくいくと思う。
- ・伝統を活かし、今の世で「おしゃれ」と感じさせる工芸を推奨することが、滋賀のイメージアップにもつながるのでは。
- ・振興していく上で、まずは滋賀県にしかない特徴を活かす必要がある。どこにでもあるものなら競争には不利。また、上手く情報を発信しないと発達はしない。
- ・多くの大学が県内にあり、魅力あるクリエイティブ産業には多くの人達が集まると思う。クリエイティブ産業の絞込みを行い、大事に育てる環境づくりをする。
- ・クリエイティブ産業が振興されれば、創造系の若者だけでなく事務・税理など経済に通じた若者の雇用も生み、食の環境も必要になる。少しずつでも前に進めば、なんらかの経済効果を期待できる。
- ・この産業のキーワードは、「自然発生的」、「集積性」、「人々の相互関係」。人々が自然と集う時間・空間を構築あるいは発見していくことが重要。琵琶湖は他県にはない強みであり、クリエイティブな人々を惹き寄せる資源。集積性を確保する上では、産業振興特区のようなエリアを絞る必要。
- ・滋賀県には、よい自然や歴史や文化があるので、それらを活かしたクリエイティブ産業を振興すべき。都会的というものよりも、ほのぼのとした癒し系のものが滋賀県にはあう。
- ・産学金との連携強化は絶対に必要。
- ・滋賀県は地域によって多様であり一言でくれないが、他県から見れば「びわ湖」以外に印象は薄い。外から誘致したり若い人を呼び込んだりするよりも、もともと滋賀にある「クリエイティブ」な地場産業を育てるべき。
- ・マンガやアニメの魅力をもっと活かした方がよい。「けいおん」や「ちはやふる」など、滋賀とゆかりのある作品をもっと利用すべき。

- ・滋賀県は今までこういう分野であまり進んでいなかったため、県内の才能を持つ優秀な人材が都会に流出していた。活性化のためにも振興に取り込むことには大いに賛成。
- ・若い世代の雇用促進のために、行政が積極的に取り組むべき。これまでの工場誘致より、クリエイティブ産業の振興による雇用促進が望ましい。
- ・滋賀県は若い人の占める割合が大きいため、若者達の活力を大いに利用すべき。仕事を求め県外に出て行く率を下げるため、若者の起業を応援するとともに、起業して失敗した人々を上手く救済すべき。
- ・京都のように空き教室や民家などで活動できるよう、滋賀も町家など場所の提供を進めるべき。
- ・どこも同じことを考える中で、滋賀県ならではのクリエイティブ産業を誘導していかなければ、うまく育たないと思う。
- ・京都や大阪に近いところで、琵琶湖の景色と周囲の自然との環境がクリエイティブ産業に向いており、クリエイティブ特区のような地域を決めてはどうか。
- ・近頃は手作りの品の良さというものが、見直されていると感じる。高島帆布のほかにも、素晴らしい作品を生み出すことの出来る作り手がいると思う。その存在を発掘・発信することで、滋賀県の良さをアピール出来るのではないか。
- ・土地柄に着目するのが重要。滋賀県の特徴や特性は？と考えると何らかのヒントが見えるかもしれない。単に、大学や企業との協業では人を魅了する産業には育たない気がする。
- ・京都や大阪に近いこともあり、今からクリエイティブ業の振興といっても難しいと思われるので、既存の産業の底上げを充実させた方がよいと思う。
- ・展開が幅広いので、ファッションに関わるものがよい。滋賀らしい独自のブランドを立ち上げて、ファッションの発信地となれるように羽ばたいてもらえる手助けができれば最高。
- ・滋賀の特色を活かした産業でなければ継続しない。滋賀＝琵琶湖というイメージが強いため、琵琶湖をクリエイティブに！というテーマで若い人に、産業となるものを募ればよい。
- ・田舎の県で、はたしてクリエイティブ産業を振興する感性があるかどうか疑問。
- ・若い人を地元に残すためにもっと積極的に取り組むべき。
- ・滋賀がにぎわい盛り上がること、若者の力でますます発展することを大いに期待するが、クリエイティブ産業にどの程度予算をかけるのか、よく考えて決めてほしい。
- ・若者が集まって来る場所やイベントを多く出来るようにして欲しい。やはり若者が興味を示す場所が無いと活性化しない。
- ・滋賀県民と感性は、あまりイメージがわからない。地道でまじめな県民は企画ではなく、製造部門のようなイメージの実物化への過程に力を出すと思う。
- ・社寺仏閣や旧跡など多くの文化財が残っているので、それらを生かした産業や地場産業を生かした新しい産業を産官学一体となって振興するべき。
- ・様々な専門分野を持つ多くの大学が立地し、クリエイティブ産業が根付きやすい環境であると考えられるが、助成の少なさからか、若者が大阪や京都などの大都市に流出しているのが現状。助成に力を入れ、成功事例を増やしていき、クリエイティブ産業の発展の土台作りを進める必要がある。
- ・もっと産業界や大学等にクリエイティブ産業の周知徹底を図り、認知度を増すことが必要。
- ・県南部を中心とした施策となると思うので、北部にはメリットがないと思う。
- ・クリエイティブ産業の収益がどのくらい見込めるのか疑問。個人の能力（センス）に影響される部分が多く、公共機関が関わって投資するには不平等であり不安定過ぎると思う。収益を求めるなら人材を育てるより指導者を教育するべき。
- ・県内に散らばった存在でなく、地域に特色を持たせたらよい。あの地域は〇〇ならピカイチと言われれば、人も金も仕事も集中するようになる。
- ・県が中心になって、クリエイティブ産業のお祭り、博覧会や展示即売会的なものできないか。
- ・沢山の若者が集まって、経済が活発になると良い。
- ・他の自治体でのクリエイティブ産業の事例に見られるように、地域で特色ある産業に特化することが必要。滋賀でしか出来ないことに特化し、地の利を活かし、ぜひクールジャパンをリードして欲しい。
- ・クリエイティブ産業はまだ社会的認知度が低いので、もっとアピールするべき。多数の人が知ること、活動も活発になり、滋賀県での振興が図られる。
- ・若い人のこれからはいいと思うが、伝統的なものにもっと力を入れたらよい。伝統とこれからの若い人の力が上手に組み合わせられることを願う。
- ・地場産業の中には、県が目指すクリエイティブ産業そのものや共通性のある産業がたくさんある。そのような地場産業への資金的な挺入れも考えてみてはどうか。
- ・コンピューターソフト会社の誘致等もよいが、もともと滋賀にある工芸や食品をもっと国内外に発信できるように研究開発すれば、滋賀県らしさが出て、滋賀県の魅力をより感じてもらえるのではないか。
- ・世界に打って出られる商品はあると思うが、それを売り込む手段が無いのではないか。そういう人も育てなければいけない。